

学校名

与論町立与論中学校

実施単元 ※実施した単元の数に応じて記載してください

単元名	学年	教科
1. 与論の海を知る	1年	ゆんぬ学
2. 与論の産業・観光・伝統芸能・生活文化・歴史を知る	2年	ゆんぬ学
3. 与論の現状を知り、未来を創る	3年	ゆんぬ学

取り組みの概要

1 はじめに

与論中学校では、小学校段階での学びや体験を生かしながら、海に囲まれた与論島をめぐる様々な現状に幅広く目を向けさせている。そしてその中から「与論島の海とくらしに関する課題」を見いだし、その解決や改善に向けて自分なりの根拠となる資料やデータを情報収集する手法を身に付けさせたいと考えて、取組を進めている。最終的には、3年時に課題レポートをまとめる活動を通して、自身の考えを論理的かつ主体的に発信して未来を切り拓く生徒の育成を目指している。

2 海洋教育の実際（例）

(1) 集団体験学習（海洋ゴミに関する講話・大金久海岸での清掃作業）

1年生の集団体験学習において、海洋ゴミと海謝美（海岸清掃ボランティアグループ）の活動について、海謝美の代表に講話後、大金久海岸にて清掃作業を実施した。講話では、海洋ゴミの特徴や、海洋ゴミが引き起こす問題についての説明を聞きながら熱心にメモをとる姿が見られた。また、海岸清掃では、どこから流れてきているのかを調べたり、大きなゴミだけでなくマイクロプラスチックなどの小さなゴミも拾ったりする生徒もいるなど、海洋ゴミに対して責任ある行動を起こそうとする姿勢が見られた。

(2) 地域サポーターによる講話（自分の問いを見つける Journey）

与論の各分野（産業、観光、文化等）で活躍されている地域サポーターの方々を積極的に活用し、生徒の見方や考え方を磨き高める活動に取り組んだ。

2年生においては、インタビューの仕方などについてのレクチャーを受けたほか、実際にインタビューや対話を通して、与論の現状と課題に向き合うことができた。さらに、1月に行われる海洋教育フェアに向けて、自分なりの考えを他の生徒の前でプレゼンテーションする取組にも繋げた。1年生においても、与論を支える方々のお話を聞いて自分の将来について意識を高めたり、与論の現状に目を向けたりすることができた。



(3) 着衣水泳

全学年を対象に実施している。地域サポーターである B&G 海洋センターの職員に講師として来校していただき、本校プールで授業を行った。安全に水辺で活動するための基礎的な知識、対処法を身に付け、自分の命を守る方法や周りの人たちと助け合う方法を知り、体験を通して習得する機会としている。今後は、実際の海で実施できないかを関係機関と連携しながら模索していく。

3 おわりに

本校での海洋教育の取組は、カリキュラム・マネジメントの視点に立って見直しを進めていく段階にある。小学校での取組についてもっと詳しく知るとともに、高等学校での「総合的な探究の時間」での取組を見据えて中学校での取組を精査していく必要がある。そして、取組を通して育みたい資質・能力を整理し、「生徒にどのような資質や能力を身に付けさせたいか」をより明確にした海洋教育を推進することで、与論島や社会の「持続可能な発展」を担っていく生徒の育成に取り組んでいきたいと考える。